

< 第三種郵便物認可 >



美浜町の国立病院機構和歌山病院

津波対策で高層化 新病棟の運営開始

結核病棟を県内で唯一所有する国立病院機構和歌山病院(美浜町和田)が、新病棟の運営を開始した。南海トラフ巨大地震で最大13メートルの津波が襲うとされる同病院。津波対策のために高層化し、5階には自家発電装置や緊急時避難所も整備された。

病棟の老朽化に伴う建て替えて、平成24年に着工。今年3月28日に完成した。新病棟は鉄筋コンクリー

新病棟が開設された国立病院機構和歌山病院―美浜町

ト5階建てで、延べ床面積約1万4千平方メートル。病床数は重症心身障害者を含む一般病棟が295床、結核病棟が15床。津波対策として売店などが入る1階部分は高さ5・5メートルの柱を立てて津波が流れ出ていくという「ピロティ構造」とした。2〜4階が病棟になる。

5階は療育訓練施設や電気室、備蓄倉庫などとなり、非常用発電機や緊急時避難場所などが準備された。7月にはヘリポートも完成する予定。